

2019年10月30日

学校法人平和学園
平和学園小学校
2019年度 学校だより 第8号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
TEL 0467-87-1662/0131
FAX 0467-87-0411
URL <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

平和の花

夢と希望の心豊かな1年へ

年間聖句

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満らし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

ローマの信徒への手紙 15章13節

“仲間”に教えられること。

平和学園小学校に通っている子どもたちは、遊んでいるときに後から来た友だちから「僕（わたし）も仲間に入れて」と言われれば、「いいよ。」と当たり前のように答え、一緒に遊ぶのが常識で普通となっています。

「仲間に入れて」と言うのは勇気があることのように思いますが、仲間外れにする子がいないので、安心して自分の要求を言えます。世の中には意地悪な子がいて、「ダメー、仲間に入れてあげない。」と言う子どももいます。その後、意地悪な子どもはどうなるのでしょうか。意地悪な子は意地悪なまま、より意地悪に成長するので、最終的に嫌われてしまうこともあるのではないのでしょうか。

私達大人は、悪い環境にいる場合、よりよい環境を選ぶか、よりよい環境を創る事ができます。居場所の確保は、子どもの積極性を育てるためにも、必要不可欠です。子どもの居場所を確保するために大人たちが協力し、子どもの望みをかなえられない環境をなくすこと、生き方やしたいことを否定する言葉を使わないことも重要になります。子どもが失敗した時、重ねて、「大人の言うことを聞かないから失敗した。」は禁句です。子どもには相手の要望を否定する『ダメ』の言葉を、言われた側に立って考えさせて、「今の言葉はどうか」と疑問を投げかける…言われたことを受け止め考えた子どもは、少したって「確かに。優しくなかった。」と自分で考え訂正し、「いいよ」に変えることでしょう。

私自身も、今年平和学園の小学生から「人間としてどうなの。」と言われ、「確かに。おかしいね。」と自分勝手に、わがままな行動の自分を反省し、子どもの言うことを聞き、子どもに従いました。その結果、より仲良くなれました。今年になって、片付けが苦手な自分の机を片付けてくれる子どもも現れました。自分のことは自分でしなければと、今は机を毎日片づけるようになりました。

こんなことも思い出しました。自分が教師になりたての岩泉小学校月出分校の小学4年生の子どもから「豆腐の作り方も知らないで学校の先生になれるの？」と聞かれたとき、「先生になれた。おかしいね。」と笑って答えました。すると、「豆腐の作り方、教えてあげる。」と言って、その子どもは教師の私に豆腐の作り方を教えてくれました。子どもは先生に教えることで自信を持つこともあります。教え合うことは、支え合うこと。一方通行では信頼関係が結ばれません。

『ダメ』と断られるのが嫌で、言いたくても言えない子どもを大人がつくらないようにしましょう。断るならば、正当な理由を子どもにきちんと伝えたいものです。

児童会の今学期の目標は『人の話をちゃんと聞いて行動する』です。最後には、聞いていない人に声をかけることもします。大人にも、自分にも、言われているような気がしています。

